

令和2年3月25日

気候変動に関する懇談会(第3回) 議事概要

1. 開催日時及び場所

日時:令和2年2月14日(金)13:30~15:30

場所:気象庁講堂

2. 出席者

委員(敬称略、五十音順、◎は会長)

石川 洋一 海洋研究開発機構 付加価値情報創生部門

情報エンジニアリングプログラム プログラム長

鬼頭 昭雄 気象業務支援センター 地球環境・気候研究推進室 室長

木本 昌秀 東京大学大気海洋研究所 教授

三枝 信子 国立環境研究所 地球環境研究センター センター長

高橋 潔 国立環境研究所 社会環境システム研究センター

広域影響・対策モデル研究室 室長

竹村 俊彦 九州大学 応用力学研究所 教授

◎花輪 公雄 東北大学 大学院理学研究科 名誉教授

保坂 直紀 サイエンスライター

山崎 登 国土舘大学 防災・救急救助総合研究所 教授

(小池 俊雄 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター センター長、

中北 英一 京都大学 防災研究所 教授 は欠席。)

気象庁:長官、気象研究所長、地球環境・海洋部長、地球環境業務課長ほか関係官

文部科学省:研究開発局長、環境エネルギー課長ほか関係官

関係省庁(オブザーバ):経済産業省、農林水産省、国土交通省、環境省

### 3. 議事

#### 【議題1】気候変動に関する気象庁及び文部科学省の動向について(報告)

事務局より、資料1-1、1-2に沿って、気象庁の組織再編や文部科学省の予算案について説明。

#### 【議題2】気候変動評価レポート2020について(報告)

事務局より、資料2に沿って、気候変動評価レポート2020の進捗について説明。

#### 【議題3】気候予測データセットの整備及びその解説書について

事務局より、資料3-1に沿って、気候予測データセットについて説明。気象研究所の高叡研究総務官(国立環境研究所気候変動適応センター「気候変動予測及び影響評価の連携推進に向けた連携チーム」座長)から補足あり。また国土交通省から、資料3-2に沿って、治水分野における気候予測データの活用事例を紹介。

### 4. 委員からの主な意見

別紙参照。

委員からの主な意見

○気候変動評価レポート2020について(議題2関係)

- レポートの作成方針(基本的な考え方、構成等)や作成状況について委員に随時情報共有するようにしてほしい。また、詳細版及び本編のサンプルを代表的な要素(気温等)について作成して委員に提示してほしい。
- 気候変動評価レポート(気象庁・文科省)と気候変動影響評価報告書(環境省)の知見を最終的に統合することを念頭に、どの時点を評価の対象とするか等について関係省庁で調整する必要あり。
- 詳細版の気温や降水量について、平均的な気候状態と極端現象が別の章に分けて記載されているが、同じ章にまとめた方がいいのではないか。
- 図表について、読者にメッセージが明確に伝わるよう工夫が必要。特に、将来のシナリオにより気象条件がどのように変わるのか直感的にわかるようになってほしい。また、本文における確信度の評価との関係が読み取れるようになってほしい。
- 気温や降水量、海面水位など様々な要素について評価が行われるとのことだが、各要素を個別に記載するだけでなく、それぞれのつながりがわかるようにした方がよい。
- 気候変動の背景知識(地球温暖化の要因、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)報告書、予測の不確実性やシナリオ等)が本編の冒頭に記載されていると読者の理解に有益。
- 本編でRCP2.6シナリオを世界平均気温2℃上昇時、RCP8.5シナリオを4℃上昇時と記述するとのことだが、2℃上昇や4℃上昇がそれぞれ何を意味するのかわかるように示してほしい(例えばパリ協定の気温目標との関係など)。また、温室効果ガス排出シナリオの前提条件や研究動向をコラム等で記載することも重要。
- リーフレットは本編・詳細版と同時に公開した方がよい。県単位で作成するため時間がかかるということであれば、全国版のリーフレットを先に作成するというのも一案。
- 2021年以降、IPCC第6次評価報告書(AR6)が公表され、世の中の関心はそちらに移っていくと見込まれる。本レポートの予測が第5次評価報告書で使用されたシナリオ(RCPシナリオ)に基づくということであれば、できるだけ早めに結果を公表した方がよい。

○気候予測データセットの整備及びその解説書について(議題3関係)

- ユーザーからのニーズや、気候変動適応計画のスケジュールを踏まえ、関係者を広く巻き込んで目指すべきデータセットの要件を検討し、定期的にデータセットを更新していくというのは非常によい取り組み。2022年に公表するデータセットについては既に作成されている予測データで構成するのが適当。しっかり進めていってほしい。
- 英国のナショナル気候シナリオ(UKCP)では最初から一つのデータセットとしてまとめることを念頭に予測計算を行っているが、今回の気候予測データセット案では様々な研究プロジェクトで作成された予測データを集めた構成になるということに留意が必要。その点が利用者にもわかるようにしてほしい。
- 解説書について、ユーザーが用途に応じてどのデータを使えばいいのかわかるよう、ガイドンスブックのような形で示唆を与えられるとよい。

(以上)